

此道路と如何せん

り將たアスハアルトを用ふるなり専門家に於て自から意見ある可し我輩の今細論するを欲せざる所なれども序ながら一言したきは保路員を設くるの一事なり鐵道には何れも保路員なるものあり絶えず線路を視察して少しだけでも破損の所あれば一々報告して隨て損すれば隨て繕ひ以て大破なからしむ當に鐵道のみならず西洋に於ては道路にも數哩毎に一人づゝの保路員を置いて保全の方法に怠りなしと云ふ今東京の道路は通じて二百里内外にして人馬の往来晝夜織るが如くなれば破損も自から速にして今日は無事なるも明日は如何なる邊に如何の損耗を生ずるやも知る可らず特に役員を設けて絶えず巡視せしめ小破損も直に修復するに非すんば遂に大破損を生じて非常の經費を要するふと猶ほ平生養生を怠れば大病を臓して大施術を行はざと可らざるが如し保存の工夫大切なに然るに目下市内道路の役人は總體にて僅に十數人に過ぎず目の届かざるは知れ切たるふとにして假令ひ今後大に改良するも其手入を怠るふと今日の如くんば到底善良なる道路を見るふと能はず改良と共に保存の工夫肝要なりと知る可し

東京の市政

述ぶる如く東京市中の市街は其延
して之を修繕する費用は毎年七八

到底其全部を繕ふ能はざるを以て全市の道路面積を五分して其一分づと毎年順廻りに修繕する譯なれども場所柄に依り人通りの多きとふろと地盤の悪しきとあるのでありて是等は五年自の順番を俟つ能はず毎年或は隔年の手入を要するが故に其結果として自から他の順番を延ばし其費用を以て斯る道路へ廻さるを得ず例へば京橋日本橋の如き難關の場所は毎年修繕する代りに山の手の戻る部分は六年も七年も手を着すして放擲し置くなり市民が只管費用を節して其修繕を手間にする間に世間は一年と進歩して鐵道の發達は田舎への出入を頻繁にし田舎の富有は都下の繁昌を促し此四五年來市内の往來交通は俄に發達して馬車、人力車の往来を繁くしたるは勿論貨物の運送に車を用ふる事も近來非常に増加して中には殆んど蒸氣力に非されば運び難からんと思はるゝ驅の巨大なる貨物を僅に二三頭の牛又は馬に牽かしむるものさへ少なからず即ち蒸氣氣罐の如き又は鐵道客車の如き市内を運び廻りて殆んと積載に無制限の自由を與へ其他腕力を以て曳く車に於ても或は山の如き荷物を積みて車夫の頭は荷物の下に埋没しながら難關の市街を遠慮なく往來し雨天の時は車輪の半ば大道に埋没するも尙ほ無理押しに押しこるもあり孰れも車輪の幅に制限なきが故に車體の堅牢ならんよりは寧ろ之を使用するに便利ならん事を主として恰も自轉車に彷彿たる細狭の車輪と用ひ氣力の續く限り迅速に街道を走る爲め道路の表面は鏡利なる厚物を以て削くが如く縦横に車輪を生じて晴天には砂を飛ばし雨天には雨水を洒へて吐口のなき者少なからず是れ實に東京の市街道路の破壊を速めしる者にして今後益々市中の繁榮を増進するに從て此破壊力も次第に進歩するなどならん即ち現今の人間が往來するは足を以てするに非ずして一切車輪の力を借りるの時代なる故に街路の設備も全く此目的を以て築造し其維持修繕にも相應に費用を支出し金力と人力を惜まずして日々の破壊力に抵抗するふと必要なる可し依て今試に東京市中を往來する車輛の數と示せば正の由ノ

然しながら是等の車輛は唯人間と貨物との運送器械にして其總數を掲げたるのみにては近來市中の運送力が如何に繁劇と爲り以上に示したる車輛が其運轉の度を高めたるかを知る可からず次號に於て往來交通の如何に増加したるやを示す可し

○傳染病豫防接種法に就て

（承前）

北里 柴三郎

之に就て精密に研究したのは古弗の助手のコルレと云ふ人であります、それで其學理を研究するにはどうしするかと申せば兼て皆さんの御聞及びでもございまコラムうが古弗の研究所でブライフェルと云ふ人が第一に着手したので即ち虎列刺の細菌を一定の溫度に依て殺し置いて……或は生きて居るのでもどちらでも宜しうござります……それを動物に或る分量を注射して追々其量を増して往て終に動物體を免疫して仕舞ふさうすと其動物の血清の中に虎列刺の細菌に對して大層強効さのわるもののが出來てくる併し其血清の動きを云ものは我々が今日實際に行つて居る所の實布塙里亞は破傷風の血清と少し趣を異にして居る元來實布塙里亞或は破傷風の血清と云ふものは細菌其者を殺す効持て居らぬ併し乍ら細菌が身體の中で一種の毒を擰て其毒の爲めに人が實布塙里亞又は破傷風の容態をして圓盤をして居る所の毒を打消す丈けの効を血清中に持て居る、夫れ故實布塙里亞に罹て居る病人に布塙里亞治療血清を注射すれば實布塙里亞毒と云ふのが圓盤に附着して居ても其所で著殖するふども何れは破傷風の血清の効能のある所以であります所が列刺に免疫したる動物の血清と云ふものは其虎列刺等に對しても固より毒を消す丈けの力があるのである。